

—わがまち歴史探訪、足もとの文化遺産への誘い—
ミュージアム都留からのお知らせ

芭蕉のさと企画展

甲州俳諧展「書籍の諸相と俳書」

会期 12月8日(土)～平成20年2月3日(日)

休館日 月曜日、第3火曜日、祝日の翌日、
年末年始(12月29日～1月3日)

日本の情報伝達的方式を展望して、概括的に言いますと、上代から中世までの写本時代と近世以降の出版時代とに二分されますが、木版印刷は平安時代からありました。基本的に宗教関係書がそれに該当します。一般書の出版となると近世からが圧倒的な量を誇ることとなりました。

新たな出版時代を迎え、豪華本から廉価本へと推移して行き、印刷技術そのものも古活字本から整版本へと変容して行きます。その過程で、現在では考えられないような大ぶりの本も認められますが、貴重な保存本としての役割を担っていたのでしょう。やがて実用を考慮して、半紙本ないしは横本が全盛となっていき、出版のスタイルそのものも多様になって行きます。明治以降、金属活字が主流となり、さらに現代になって変容していると理解して良いでしょう。

支配階級から庶民階級まで流布していた江戸時代における俳諧の出版スタイルは、和歌や小説家とは様相が異なります。和歌や小説系が現代でいう出版社(出版書肆)から刊行されるのに対して、全てとは言えませんが、俳諧は基本的に私家版のスタイルを取って行きます。

これに対して芭蕉は自分のものに関しては、写本のスタイルでしか資料を残していません。出版された俳書は、ほぼ門弟の名によるものとなります。

今回は複製品や原資料類を駆使して、書籍の諸相と俳書のあり方を展望してみます。

新たな出版時代を迎え、豪華本から廉価本へと推移して行き、

あの松尾芭蕉が都留市にやって来た！

元禄時代の天和3年(1683年)、江戸の大火で庵を焼かれた松尾芭蕉が弟子の高山傳右衛門繁文(俳号麁塙)に招かれ麁塙の家の離れである「桃林軒」に約半年間滞在しました。ミュージアム都留では、このような歴史をふまえ、毎年芭蕉と甲州の俳諧史について紹介する「甲州俳諧展」を開催して、「桃林軒」今年で7回目となります。



※ふるさと会館の裏手にあります。

勝山城のなぞに迫る！

小山田氏の中津森館跡があったとされる場所の周辺には、デイ堀という深い落ち込みが残されています。昨年度、中津森館跡推定地周辺で行った地中レーダー探査の結果、このデイ堀が北側へ続いている可能性が出てきました。このデイ堀の続きを探し、堀の全容を知ること、館のあった場所がある程度特定できるのではないかと考え、このデイ堀の続きの調査を行いました。その結果、地中レーダー探査で確認されたように落ち込みが北側でも確認することができました。今後はこの落ち込みがデイ堀の一部かどうか特定するために調査を進めていきます。

申込・問合せ先
ミュージアム都留 電話(45)80008

その他 各教室とも定員になり次第締め切ります。
申込 場所 ミュージアム都留
ご参加される方は事前にお申し込みください。
共通事項 定員 20名
材料費 1000円
日時 平成20年1月6日(日)午後1時
内容 竹馬や竹とんぼを作ります。
昔の遊びを体験しよう

★企画展関連イベント★

俳句かるた練習会

日時 12月22日(土)午後1時～

冬休みチャレンジ教室

しめ縄作り

日時 12月23日(日)午後1時30分

持ち物 カッター、定規(30cmくらい)

材料費 1000円

定員 30名

昔の遊びを体験しよう

日時 平成20年1月6日(日)午後1時

材料費 1000円

定員 20名

共通事項

申込 場所 ミュージアム都留

ご参加される方は事前にお申し込みください。

その他 各教室とも定員になり次第締め切ります。

申込 場所 ミュージアム都留

ご参加される方は事前にお申し込みください。

その他 各教室とも定員になり次第締め切ります。

申込 場所 ミュージアム都留

ご参加される方は事前にお申し込みください。

その他 各教室とも定員になり次第締め切ります。

申込 場所 ミュージアム都留

ご参加される方は事前にお申し込みください。

その他 各教室とも定員になり次第締め切ります。

申込 場所 ミュージアム都留

ご参加される方は事前にお申し込みください。

その他 各教室とも定員になり次第締め切ります。

申込 場所 ミュージアム都留

ご参加される方は事前にお申し込みください。

その他 各教室とも定員になり次第締め切ります。

申込 場所 ミュージアム都留

ご参加される方は事前にお申し込みください。

その他 各教室とも定員になり次第締め切ります。

増田誠美術館

増田誠が描く神話の世界

会期 平成20年3月2日(日)まで

午前9時～午後4時30分

会場 増田誠美術館

(ふるさと会館2階)

休館日 月曜日、第3火曜日、祝日の翌日、年末年始(12月29日～1月3日)

増田画伯が描いた500号の油彩画

の大作『オリンポスの神々とギガンデスの戦い』のほか、石版画の『トロイの馬』や『アマゾンと戦うヘラクレス』などを展示しています。



『ディオニュソスとミダス王』(1976年)石版画

ディオニュソスは、世話になったお札にミダス王に「何でも自分が触れると金になる力」を与えた。しかし、ミダス王は、自分が触れるパンや酒だけでなく家族までが金に変わってしまった。人は金だけでは生きてゆけないことを知ったのである。